

一

神代の昔
大地はまだ固まっておらず
くらげのように漂っていました
イザナギノミコトとイザナミノミコトは
天つ神から国を固めよと
命じられました



二神は天の浮き橋に立ち
天の沼矛で海原をかきまぜました
すると沼矛からしたたり落ちた
しずくが固まって島ができました
それがおのこる島です

二

イザナギノミコトとイザナミノミコトは
おのこる島へと降り立ち
最初の子 蛭子神を生んだ後
淡路島を始め
次々と日本の国土を生み出しました
それから長い年月がたち

ある時
漁師の百太夫が漁をしていると
にわかにかき曇り
光り輝く子供の姿の神があらわれました

：朕は上古の蛭子なり
いまだ住む所なし
海辺に宮殿を建てよ…

と言われたのです



三

百太夫は
さっそく西宮大明神を建て
道薫坊という者が
蛭子神に仕えました

しかし道薫坊が亡くなると
神慮を慰める者がなく
天候は荒れ
人々に災いが降りかかりました



四

百太夫が
このことを都の近衛殿に
お伝えすると

：道薫坊に似せた人形を作り
神をなぐさめよ…

と 勅命がくだりました

百太夫はすぐさま
道薫坊そっくりの操り人形を作り
蛭子神に人形を舞わせて見せました



五

すると
荒れていた国は治まり
波風も静まり
豊漁が続きました



百太夫は
人形を操りながら日本中を巡り
後に 淡路の三條村にとどまり
人形操りの技を伝えました

六

その技を受け継いだ
百太夫の子 引田淡路掾は
元龜元年（一五七〇）宮中の節会で
三社神楽（式三番叟）を奉納し
従四位下という高い位を
授かりました

